

# 葦崎工高新聞

7月号

発行所  
葦崎工業高校  
新聞委員会

## 葦工生の底力を見せる

### 夏の高校野球

第103回全国高等学校野球選手権山梨大会は7月9日、開幕であったが、雨のため順延となり10日、山口YBS球場と富士北麓球場を会場に開幕した。前回の第102回大会は新型コロナウイルスの影響で中止となり、2年ぶりの開催となった。本校は初戦、伝統校の甲府商業高校と対戦した。



1球を捕らえる瞬間。3番打者の竹内駿主将  
(写真協力：奥石清明先生)

葦崎工業高校は10日、富士北麓球場で2回戦、甲府商業高校と対戦した。結果は2対5で力およばず惜敗した。

試合は甲府商業が初回に2点を挙げ、その後5回に1点、七回と八回にそれぞれ1点、加えた。葦崎工業は一回から六回まで毎回ランナーを塁に出すも、ランナーを返せなかった。しかし、0対4で迎えた七回に、1ア

ウトから2番打者の小林胡天さん(2年)が右中間を破る、3ベースヒットで、3塁まで進んだ。次の3番、竹内駿さん(3年)の3球目がワイルドピッチとなり、1点を返した。その後、竹内駿さんもレフト前ヒットで出塁し、4番の秋山愁馬さん(3年)と5番代打の深澤遊都さん(3年)が連続フォアボールで1アウト、満塁とした。7

番の守屋岳吉さん(3年)がライト前ヒットを打ち、1点を返し、2点差を縮めた。しかし、反撃もここまで、八回に1点をこられ、3点差のまま試合終了となった。

「夏の大会を振り返り、応援してくれた人や親に3年間の集大成となるこの試合で恩返しをする」とができて、良かった。10年間野球をやってきたことは「生の宝物」

「この夏の大会ではベスト8を目指していたので、負けてしまい悔しかった。親に勝つて恩返しをしたかったが、叶えることが出来ず残念だった。後輩には頑張ってもらいたい」

「この夏の大会ではベスト8を目指していたので、負けてしまい悔しかった。親に勝つて恩返しをしたかったが、叶えることが出来ず残念だった。後輩には頑張ってもらいたい」

「この夏の大会ではベスト8を目指していたので、負けてしまい悔しかった。親に勝つて恩返しをしたかったが、叶えることが出来ず残念だった。後輩には頑張ってもらいたい」

「この夏の大会ではベスト8を目指していたので、負けてしまい悔しかった。親に勝つて恩返しをしたかったが、叶えることが出来ず残念だった。後輩には頑張ってもらいたい」

「この夏の大会ではベスト8を目指していたので、負けてしまい悔しかった。親に勝つて恩返しをしたかったが、叶えることが出来ず残念だった。後輩には頑張ってもらいたい」

## 事故・違反「0」を目指す

### 今年も運動始まる

今年も交通事故・違反「0」3カ月運動が7月1日から9月30日まで3カ月、行われる。この運動は交通事故・違反「0」を目指し、生徒の安全確保を目的としている。



運動を呼び掛ける懸垂幕

本校は遠方から通学している生徒が多いことから、自転車通学者が395人、バイク通学者が40人、多くの生徒が自転車やバイクを通学手段として利用している。昨年度の事故件数は自転車による事故が接触・衝突事故が14件、わき見・

今年4月から6月末までの事故件数は自転車による事故が2件、原付による事故が車間距離を取らず追突が1件、自損事故が1件であった。7月に入ってから事故・違反は今のところ0件と好調なスタートとなっている。

生徒指導部では校舎に懸垂幕を掲げ、全校生徒に交通安全を呼びかけている。(石川、甲斐)

今年4月から6月末までの事故件数は自転車による事故が2件、原付による事故が車間距離を取らず追突が1件、自損事故が1件であった。7月に入ってから事故・違反は今のところ0件と好調なスタートとなっている。

生徒指導部では校舎に懸垂幕を掲げ、全校生徒に交通安全を呼びかけている。(石川、甲斐)

生徒指導部では校舎に懸垂幕を掲げ、全校生徒に交通安全を呼びかけている。(石川、甲斐)

## 文田選手を応援しよう

### オリンピック開幕まで2日

東京2020オリンピックが7月23日に開幕し、8月8日までの17日間、開催される。山梨県ゆかりのオリピック選手は7人、その中の1人が本校卒業の文田健一郎選手だ。文田選手はレスリング・グレコローマンスタイル60kg級に出場する。

3年生まで階級違いでそれぞれ優勝し3連覇を成し遂げた。また、高校3年生のインターハイでも優勝している。反り投げを得意技とし、数多くの大会で優勝してきた。本校体育科の文田敏郎先生の息子さんでもある。

レスリング競技は8月1日から8月7日まで行われ、文田選手は8月1日が初戦となる。1日は準決勝まで行われ、8月2日に決勝が行われる。

全校生徒の応援で、文田選手の活躍と金メダル獲得を願う。(宮澤)



文田健一郎選手

全校生徒の応援で、文田選手の活躍と金メダル獲得を願う。(宮澤)

全校生徒の応援で、文田選手の活躍と金メダル獲得を願う。(宮澤)

**Our teacher**

今回は1年5組の担任、電子機械科の佐藤有記先生。じめじめ、生徒思いの先生。そんな佐藤先生を紹介する。

— 出身高校は。「甲府工業高校」  
— 趣味は何ですか。「バーベキュー」

## 葦工生はあいさつができる



佐藤 有記 先生  
教科・工業科  
(36歳)

「座石の銘または好きな言葉は。「初一念(しよいちねん)」  
— 教員になったきっかけは。「民間企業で10年働き、ものづくりの楽しさを高校生に教えたいと考えたから」  
— どんな高校生で。どんな高校生で

「部活に一生懸命だった」  
— 高校時代の部活動は。「新体操」  
— 高校時代の思い出は。「インターハイ出場、2m級の雪だるまを造ったこと」

「あいさつがよくできている」  
— どのようならすにしたいか。「周りの応援してもらえるクラス」  
— 私たち、生徒に一言お願いします。「高校生活は3年間しかありません。今しかできないことに一生懸命取り組んでください。一生懸命になれるものを見つけてよ」

「あいさつがよくできている」  
— どのようならすにしたいか。「周りの応援してもらえるクラス」  
— 私たち、生徒に一言お願いします。「高校生活は3年間しかありません。今しかできないことに一生懸命取り組んでください。一生懸命になれるものを見つけてよ」

「あいさつがよくできている」  
— どのようならすにしたいか。「周りの応援してもらえるクラス」  
— 私たち、生徒に一言お願いします。「高校生活は3年間しかありません。今しかできないことに一生懸命取り組んでください。一生懸命になれるものを見つけてよ」

## ニラテク

今では1日1回は名前を聞くだろう、「一夜に駆ける」で有名になったYOSA SOBI。コン

ボーダーのAyase、ボーカルのikuraからなる「小説を音楽にするユニット」だ。2019年11月にネットで公開された第一弾楽曲「夜に駆ける」は、翌年12月にストリーミング再生3億回を突破し、年間最チャート1位を獲得するなどの人気ぶりだ。そんなYOSA SOBIが7月4日、ニコロのUT-2フライックTシャツブランドとコラボし、無料生配信ライブ「SING YOUR WORD」を行い、約28万人が同時視聴した。この人数は生配信だからこの人数だ。では、その生配信の魅力とは何か。その場に集まらなくても楽しむことができるというところ。新型コロナウイルスの影響でライブやフェスが中止になっていく中、生配信では多くの人が視聴できるのと同時に、感染の心配がないという点でも良いだろう。本校でも体育館での全校集会が行われておらず、生配信になっている。その他にも様々な業界で、オンライン配信が行われている。▼新型コロナウイルスは一向に収まる気配はない。10月に行われる葦工祭はどのような形で行われるのか、期待が高まる。(坂本)

# 特集 コロナウイルス7割が怖い

## 2回目の意識調査を行う

山梨県の新型コロナウイルス感染者は累計2190人（19日発表）。6月には県内の高校でクラスターが発生し、コロナウイルスの脅威が近々となってきていることを実感したはず。東京は「まん延防止等重点措置」から4度目の「緊急事態宣言」に入り、このところ1000人を超えている。新聞委員会では、昨年10月、厚生労働省から出されている「新しい生活様式」実践例をもとに、蕨生100人にアンケートを行ったが、再度、コロナウイルスについて、100人に聞いてみた。

「あなたは新型コロナウイルスについて、どう思っているか」については「怖いと思う」が68%、「慣れてしまったので、何とも思わない人」が18%、「どちらともいえない」が9%、「怖くない」が5%であった。7割の人が怖いと感じているが、その中で慣れてしまった人や怖くない人が2割強いることが分かった。

### 友人との距離難しい

「学校でクラスターが生じないようにするために、どのようなことをした方が良いか」について

は、「体調が悪いときは学校を休む」が84%と一番多く、次に「こまめにうがい、手洗い、消毒を行う」が81%、「人との会話の際は必ずマスクをする」が77%であった。「毎日体温測定をし、健康チェックにつとめている」「昼食時には、自分の席で食べる」は7割程度であった。低かった項目は「一人との間隔を最低1mはあける」については49%、「特別な行動はしない」が6%であった。学校内でクラスターが発生しないよう各自心がけているが、友人との身体的距離を確保するのは難しいようだ。

### マスク着用向上

は難しいようだ。

昨年10月に行った「新しい生活様式」については、「一人一人の基本的感染対策」は「マスクの着用」が99%と14ポイント向上した。「手や顔を洗う」と「感染が拡大している地域への移動は控える」が8割程度で前回と同じであった。一番低かったのは「会話は正面を避ける」が36%で10ポイント下がった。「日常生活での基本的生活様式」については、「手洗い、手指消毒」が

75%と高かったが昨年より7ポイント下がった。「3密の回避」と「体温測定と体温チェック」は昨年同様7割、実施している。一番低かったのが「身体的距離の確保」が42%であった。「日常生活の各場面の生活様式」については「買い物で一番気をつけていることは「レジに並ぶときは、前後にスペースをとる」で74%と5ポイント上がった。

公共交通機関の利用では「会話は控える」と「一人との間隔を保つ」については、7割の生徒が心がけていた。食事では「飲み物の回し飲みは行わない」が69%と28ポイント、「おしゃべりは控える」が57%で14ポイント上がった。「横並びで座る」が前回同様低く、38%だった。イベント参加については「発熱や風邪の症状がある場合は参加しない」

が81%、「感染拡大地域でのイベントに参加しない」が78%と高く、多くの人が集まる場所への意識が高いことがわかった。長引く自粛生活によりコロナ疲れが心配される。しかし、最近では「コロナに慣れてしまい県外への行動が多くなってきている。一人一人の意識や努力により、感染拡大を防ぎ、命を守ることに努めて欲しい。」（今村）

## 全国大会への抱負を語る

### 山梨県代表を意欲して演奏

第45回全国高等学校総合文化祭「紀の国わかやま総文2021」が7月31日から8月6日まで、和歌山県の各会場で行われる。

本校からは太鼓部が郷土芸能部門の伝承曲・創作曲を含む「和太鼓一部門」に出場する。郷土芸能部は8月3日から5日まで、和歌山市で行わ

れ、太鼓部は4日に「士魂」を演奏する。部長の中込泰汰さん（3年）は「部員一人一人が自身をもって、やりきれた、悔いのない演奏ができたと言えるような演奏ができるよう、頑張りたい。山梨県の代表として、和歌山県で演奏をするので、演奏するときには常に山梨県代表というこころをこがけていきたい」と抱負を語った。

### 力の限りを出したい



大柴拓真さん

第16回若年者ものづくり競技大会が8月4日から5日、愛媛県で行われ、本校からウェブデザイン職種競技に大柴拓真さん（3年）が参加する。大柴さんは第16回ウェブデザイン技能競技会、若年者部門の入賞者22人に入り、出場権を得た。大会は1日目に30分間で課題を解くスピードテストが行われ、2日目は実際のホームページの改善案を挙げ、改良したホームページを作成する。大柴さんは「大会には専門学校の学生も出場するため厳しい大会となるが、自分のできる限りの力を出していきたい」と抱負を語った。（長林）

## 全校生徒にエールを送る

### 応援委員会



小田切音羽さんと早川竜輝さん

6月の放課後、応援委員の声が聞こえてきた。7月2日に行われる壮行会に向けて、応援練習を行っていた。しかし、雨のため、壮行会は中止となり、練習の成果を披露することが出来なくなっ

た。いつも生徒の活躍を盛り上げてくれていた応援委員会。応援委員は1年生12人、2年生3人、3年生2人の17人。3年生は委員長早川竜輝さん、副委員長の小田切音羽さんの2人。委員会の目標は「大きな声で学校全体を一つに」。活動内容は壮行会、蕨生祭などの行事前に集まり、校歌やエールなどの一連の流れを練習する。早川さんに応援の難しいところについて聞いたところ「応援すること。声を出さずとも工夫が必要だったり、型を練習しても思うようにならないことが多かったりすること。最も難しいことは後輩を指導すること」と語った。また応援の魅力については「野球応援で場を盛り上げたり、エールを送った。練習ばかりやっているの練習ばかりやっていた。当時の蕨生も今と変わらず、あいつがでける学校だった。教育実習生として勤務してみても、蕨生はまじめに取り組む生徒が多く、元気がよいと思った。教育実習の感想は、多くの生徒からたくさん経験ができ、とてもよい実習だった。今の夢は教員になること。最後に、生徒の皆さん、高校時代に夢中になれることを見つけて欲しい。」（飯嶋）

### 編集後記

地道な作業の繰り返しで、紙面1枚に何人も人が関わっているのが、すごいと思った。思っていたより大変ではなかった。記事を書いて楽しかった。▼仕事が多かったため大変だったが頑張った。▼自分の言葉でまとめることが難しかった。▼野球についての記事を書いたが、リード文など写すだけの文はできたが、本文は詳しい人に聞かなければいけなかったため、少し大変だった。

### 編集担当

- 記事 今村妃世里、長林育弥（3年）
- 坂本優良、樋口楊一朗、清水翔太、宮澤一青（2年）
- 飯嶋章太郎、石川椋真、甲斐武蔵、長田未来、加藤透真（1年）
- パソコン ○パソコン
- 中込誠也、藤森聖和（3年）
- 4コマ漫画 横山誠人（3年）

## コロナをぶっ飛ばせ!

